

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																
東洋医療専門学校		平成12年3月31日		太田 宗夫		〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35 (電話) 06-6398-2255																
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																
学校法人新歯会東洋医療学園		平成12年3月31日		宮川 藤一郎		〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35 (電話) 06-6398-2255																
分野	認定課程名	認定学科名		専任士	高度専任士																	
医療	医療専門課程	柔道整復師学科		平成6年文部科学省告示第84号	—																	
学科の目的	職業人教育を通して社会に貢献すること(ミッション)とし、広い視野を持って現実を見つめ、豊かで柔軟な感性と人格を身につけ、基本的知識・技術を体系的に授け、常に新しい技術を追求め、未来を見つめる「心構え」すなわち「主体性」を持って社会に必要とされる歯科技工士の養成を自覚している。この「主体性」の修得こそ本校が自負する教育であり、三つの教育理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を柱に「主体性」を持って、現代社会で自己の未来を切り開いていく確かな能力を、真実と信念を持った人間の育成、各業界でリーダーとなる人材の育成を教育の目標、目的としている。																					
認定年月日	平成26年3月31日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技															
	3年	2865時間	1440時間	585時間	840時間																	
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
180人		185人	0人	9人	51人	60人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 100点満点、60点以上合格																		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月10日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件 学年を通じて所定の授業時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上の合格点を取ったもの。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者面談を経て補習を行う			■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 トレーナー活動参加など ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 鍼灸院・接骨院・美容・福祉・スポーツ ■就職指導内容 キャリアセンターによる、社会人基礎力講座を開講 ■卒業者数 : 48 人 ■就職希望者数 : 32 人 ■就職者数 : 32 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 66 % ■その他 ・進学者数: 11人 ・一時的な仕事に就いた者 5名 ・上記以外の者 0名 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																		
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師</td> <td>②</td> <td>48人</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	柔道整復師	②	48人	43人							
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																			
柔道整復師	②	48人	43人																			
中途退学の現状	■中途退学者 17 名 平成29年4月1日時点において、在学者187名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者171名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学力不振・経済的理由・進路変更など ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 導入教育の充実、個人面談、三者面談の実施など			■中退率 9 %																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科のホームページURL	http://www.tovoiryo.ac.jp/gakka/it/																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学部、歯学部、獣医学部、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めず、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。
③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野」に就職した者を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学校法人新歯会東洋医療学園が設置する東洋医療専門学校教育課程の編成における基本方針は、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映させることが重要であり、今後さらなる連携体制を構築していかなければならないと考えている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

東洋医療専門学校教育課程編成委員会規程第2条に明記されているように教育課程編成委員会は、法人の最高意思決定機関である法人理事会の直下に置かれている。組織図参照同規定第3条及び第4条のとおり理事長が事務局委員長となりその他の構成メンバーは法人理事会により承認される。具体的には学校の各セクションの責任者と、専門分野に関する企業の役職員など広く選任されている。

教育課程編成委員会で得た企業等の意見や要望は学科内で要約されカリキュラムへの反映を事業計画発表会で共有し次年度事業計画に盛り込まれる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	学科	種別
徳山 健司	公益社団法人大阪府柔道整復師会 会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科	①
田中 信行	田中整骨院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科昼間部	③
布田 久登	ぬの整骨院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	柔道整復師学科夜間部	③
【学内担当者】				
岩崎 英明	柔道整復師学科 学科長			
山田 靖典	柔道整復師学科 副学科長			

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催される。また前期後期の授業開始前に時期には、実習座学指導を行う企業からの講師との意見交換や、情報共有の機会として講師会議を開催している。

(開催日時)

第1回 平成30年7月1日 11:00～13:00

第2回 平成30年11月11日 9:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

本年度は「導入教育における取り組みの再構築」を重点項目として話し合った。企業委員からの意見を反映した重点目標は以下となり、次年度事業計画中に実行していく。

●在学中に学校で教授すべき内容はあくまでベースとするべき(①正確に身体を触る技術、②人間力)と考える
具体的には新入生のオリエンテーションにおいてスポーツ体験を行う。筋組織の疲労を通じて、疲労緩和への過程を体感することで、自身の目指す職業観の植え付けを図る。またその後のグループ討議により、さまざまな価値観から答えを導き出すキャリア教育も目的としている。

●新カリキュラム実施にあたり魅力ある科目作り 実技科目を強化し、座学の必要さを教授する。国家試験合格に向けた、カリキュラムの再構築を図る。アクティブラーニング(演習形式)を随時とり入れていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日々進化する医療業界では、新しい技術や新しい知識の習得が重要である。企業と連携した実習・演習を通じ、最先端の技術・知識習得を目的としている。また、技術・知識だけでなく目指す業界の方々と接することにより学習意欲就業意欲向上を目指している。

実習・演習等で学んだ知識・技術が将来における臨床現場で活用され、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うとともに、実社会におけるルール等を肌で感じ職業観・勤労観を育成するとともに、自らの適性を見つめながら具体的な将来像を描き、社会人としての総合的な人間力を高めることを基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

学外では実習指導要領に基づいて、企業と実習履修内容の詳細打ち合わせを事前に実施し、学内での事前オリエンテーションでは考え方・行動・姿勢を十分説明し、企業および担当者にも失礼の無いよう指導する。この実習期間中は企業担当者と担当教員で問題点の有無を相談し、問題点が発生すれば対応を行う。学内の演習においては業界が求める人材に必要な到達度について企業と事前に授業内容の打ち合わせを行った上で授業計画を立案し、それに基づいた演習の実施・及び評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	付属整骨院において、講義や実習等で学んだ知識・技術を実践結びつけて対応出来る能力を養う	附属整骨院
基礎包帯固定学	骨折・脱臼・捻挫等の臨床的固定法の技術を習得させる。	やまの鍼灸整骨院等
柔整治療学実習	実際の整骨院等において、講義や実習等で学んだ知識・技術を実践結びつけて対応出来る能力を養う。柔道整復学各論を部位別に学び、実習を通じて疾患の検査法、整復法、固定法などの治療技術を習得する。	正木鍼灸整骨院・山本鍼灸整骨院・小田垣鍼灸整骨院等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、資質・能力の向上を研修の基本方針としている。

教職員研修規程に基づき、担任マニュアル・教職員研修マニュアル・講師マニュアルに則り研修を実施している。具体的には、業界で求められる最新の知識・技術を習得するため業界が主催する学会への参加、大阪府専修学校各種学校連合会の主催する教員研修に積極的に参加している。

滋慶学園グループ内では教育の質的向上を目指すために独自の研究機関として滋慶教育科学研究所を設置し、教育システムの構築・教育ノウハウの蓄積を行っている。また専門分野に分かれた委員会が設置されており、より教育の質向上に向けた研修が行われている。その他としては、学生指導に関わる人・カリキュラム・教材・環境に関する各委員会による研修も行っている。

(2)研修等の実績（平成29年4月～平成30年3月）

①専攻分野における実務に関する研修等

1	日時	平成29年7月31日～8月5日
	場所	名古屋大学
	出席者	姫将司
	研修名	第37回人体解剖トレーニングセミナー
	内容	解剖学教育に携わる教員として知識の向上、再履修を目的とする
2	日時	平成29年8月6日
	場所	森ノ宮医療大学
	出席者	山田靖典、岩崎英明、竹田英樹
	研修名	認定実技審査員 旧制度研修会
内容	各専門学校で行う整復固定柔道の実技審査方法、審査員の振る舞いなど	
3	日時	平成29年11月3日～4日
	場所	大阪府立国際会議場
	出席者	竹田英樹、姫将司
	研修名	第26回 日本柔道整復接骨医学会学術大会
内容	骨模型シュミレーターを使用した実技授業について	
4	日時	平成29年11月19日
	場所	東洋医療専門学校
	出席者	岩本暁美
	研修名	日本ストレッチング協会主催 ブラッシュアップセミナー
内容	身体が硬い人のためのパートナーストレッチング	

5	日時	平成30年3月25(日)
	場所	講道館大阪
	出席者	堀口晃一
	研修名	Bライセンス審判講習会
	内容	柔道試合の審判内容変更点について

②指導力の修得・向上のための研修等

1	日時	平成29年5月11日
	場所	大阪私学会館3階 302-303号室
	出席者	竹田英樹
	研修名	新任教職員人権教育研修会
	内容	生徒の背景にある人権課題と教職員が備えるべき視点について
2	日時	平成29年6月14日
	場所	太閤園
	出席者	井上垂久史
	研修名	FDミドルレベル研修
	内容	カリキュラムマネジメントの基礎とその技法
3	日時	平成29年8月28日
	場所	大阪保健福祉専門学校
	出席者	岩本 暁美
	研修名	アクションラーニング現場セッション
	内容	教育現場での問題点の提起とセッション
4	日時	平成29年9月28日・29日
	場所	太閤園
	出席者	井上垂久史、姫将司
	研修名	カウンセリング研修(一次)
	内容	学生や保護者への対応の向上を目指す。
5	日時	平成29年10月23日
	場所	大阪私学会館3階 302-303号室
	出席者	竹田英樹、堀口晃一、岩田早紀
	研修名	教職員のための指導力向上講座①
	内容	活力あるクラスづくりのための指導力向上について

(3) 研修等の計画 (平成30年4月～平成31年3月)

①専攻分野における実務に関する研修等

1	日時	平成30年5月20日
	場所	CIVI 北梅田研修センター 505
	出席者	竹田英樹
	研修名	オルソグ実践会ファーストアップセミナー
	内容	膝内側側副靭帯損傷の鑑別疾患とエコー読影、ギプス固定時の注意について
2	日時	平成30年5月20日
	場所	堺市産業振興センター
	出席者	姫将司
	研修名	プロベナーセミナー
	内容	手術療法の適応と限界点、現場で求められる人材とは
3	日時	平成30年5月30日
	場所	東洋医療専門学校
	出席者	岩本暁美、竹田英樹
	研修名	滋慶教育科学研究所主催 学会研究の進め方の勉強会
	内容	教育研究の方法と進め方

4	日時	平成30年7月6日
	場所	CIVI 新大阪研修センター 802B
	出席者	竹田英樹
	研修名	オルソグ実践会 足関節捻挫の診立てと治療
	内容	前距腓靭帯と踵腓靭帯損傷時の鑑別疾患とエコー読影、U字固定について
5	日時	平成30年8月18日・19日
	場所	品川プリンスホテル
	出席者	岩崎英明、山田靖典、井上亜久吏、堀口晃一、姫将司
	研修名	第60回全国柔道整復学校協会教員研修会
	内容	骨折・脱臼の1人整復法。アンチドーピングについて。選手・トレーナー・柔整師の関わり

②指導力の修得・向上のための研修等

1	日時	平成30年6月27日
	場所	太閤園
	出席者	岩田早紀
	研修名	2018年度FDマイクロレベル<フォローアップ>研修
	内容	クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び実践することができる
2	日時	平成30年6月28日
	場所	太閤園
	出席者	岩崎英明
	研修名	FDミドルレベル研修
	内容	自学科のスタッフの成長を促進する。など
3	日時	平成30年7月13日
	場所	東洋医療専門学校 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35
	出席者	林 宏明
	研修名	FD研修
	内容	実技授業のティーチング方法について
4	日時	平成30年7月23日・24日
	場所	太閤園
	出席者	岩崎英明
	研修名	FDマイクロレベル研修
	内容	目的およびプログラム内容を理解し、教育力向上のスキルアップについて
5	日時	平成30年7月28日
	場所	太閤園
	出席者	国家試験対策研修会
	研修名	山田靖典、岩崎英明井上亜久吏、堀口晃一、竹田英樹、姫将司、岩本暁美
	内容	国家試験の傾向と対策及び指導方法について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか・学校の特色は何か・学校の将来構想を抱いているか

(2) 学校運営	・運営方針は定められているか・事業計画は定められているか・運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか・人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか・意思決定システムは確立されているか・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか・カリキュラムは体系的に編成されているか・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか
(4) 学修成果	・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか・授業評価の実施・評価体制はあるか・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教員の専門性を向上させる研修を行っているか・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか・資格取得の指導体制はあるか
(5) 学生支援	・就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか・資格取得率の向上が図られているか・退学率の低減が図られているか・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(6) 教育環境	・就職に関する体制は整備されているか・学生相談に関する体制は整備されているか・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか・学生の健康管理を担う組織体制はあるか・課外活動に対する支援体制は整備されているか・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか・保護者と適切に連携しているか・卒業生への支援体制はあるか・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか・財務について会計監査が適正に行われているか・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか・自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より得た意見については、運営会議・全体会議などにおいて学校全体で共有される。
・カリキュラムや指導方法への要望 → 学科ミーティングで改善策を協議し実行している。
・学校運営などへの要望 → 事業計画書に反映。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日

名前	所属	任期	種別
小原 雅生	一般社団法人大阪府歯科技工士会南大阪支部 支部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	保護者
布田 久登	ぬの整骨院 院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生
小早川 真一	大阪府立牧野高等学校 教頭	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	高等学校
内木 雄一	一般社団法人大阪府歯科技工士会南大阪支部 相談役	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(歯科技工士学科)
林 靖之	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター 副院長兼救急(外科)センター長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
岩崎 好子	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院 副看護部長兼ICU看護師	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
辻 節子	医療法人仙養会 北摂総合病院 副院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
富永 礼子	一般社団法人鍼灸保険協会大阪 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
西川 和義	株式会社 西川東洋医学研究所 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
高瀬 裕司	桜鍼灸整骨院 木川東 院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
徳山 健司	公益社団法人大阪府柔道整復師会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)
田中 信行	田中整骨院 院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法→ホームページ

公開時期→9月に更新

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開及び開示に関し、学校が必要な事項を定め、当該情報を積極的に公開することにより、教育活動や取り組みについて広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会全体からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名、所在地、連絡先、沿革、学校の特色(教育活動、カリキュラム) 教育目標、教育指導方針
(2) 各学科等の教育	定員数、入学者数、在校生数、カリキュラム(科目編成、授業時間数)、進級・卒業の要件(成績評価基準、卒業の認定基準)、目指す資格・検定等、資格取得等の実績、卒業生数、卒業後の進路(進学者数、主な就職先、就職者数)
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織・活動(教職員の研修・研究活動)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職支援への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、部活動・放課後活動・生徒会活動等の状況、家庭・地域・企業等との連携による取り組み、他の学校との連携による取り組み等の状況
(6) 学生の生活支援	学生の生活指導への取組状況(指導上の諸問題(中途退学、不登校など)の状況及びそれに対する学校の対処や指導の状況、心のケアの体制整備等に関する状況、留学生支援や障がい者支援も含め学校が取り組む様々な学生支援)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(金額や納入時期等)、活用できる経済的就学支援措置の内容(授業料減免措置、奨学金等の案内)
(8) 学校の財務	財務諸表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	外国の学校等との交流状況(教員・学生間交流や単位互換等に関する実績)
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

方法	ホームページにて情報提供をおこなっている
URL	http://www.toyoiryoo.ac.jp/gakko/jyuhou/
バナーの場所	本校HPのトップページ右上に「情報提供」のリンクバナー(網掛け白文字)を設置
提供形式	ページ内のテキスト・エクセル・PDF
検索について	各検索エンジンに「東洋医療専門学校 情報提供」を入力確定でページに移動可

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			キャリアデザイン講座1 Course Of Career Design 1	社会人基礎力を学ぶことにより、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力を習得する。	1前	30	2	○			○			○		
○			キャリアデザイン講座2 Course Of Career Design 2	医療を学ぶ上での基礎知識を学び、科学的視点、論理的思考を身につける。	1前	30	2	○			○				○	
○			栄養学 Nutrition	患者の治療に携わる際の栄養指導の基礎を習得する。	1前	30	2	○			○				○	
○			医学英語 Medical English	コミュニケーションのためのレッスンを中心に柔道整復/医療に結びつく英語の習得。	1前	30	2	○			○				○	
○			社会福祉学 Social Welfare	社会福祉の概念と社会福祉政策の現状と介護福祉について学ぶ。	1後	30	2	○			○				○	
○			心理学 Psychology	自分を知ることから始め、患者心理を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○	
○			経営マネジメント Office Management	経営学の基礎と。開業に際して必要な知識を学ぶ。	3前	30	2	○			○				○	
○			解剖学1 Anatomy 1	人体の機能構造を学ぶ。身体の構築、特に骨・関節・筋を中心に理解する。 1. 人体解剖学概説 2. 運動器系 3. 脈管系 4. 消化器系 5. 呼吸器系	1前	30	2	○			○				○	
○			解剖学2 Anatomy 2	人体の機能構造を学ぶ。身体の構築、特に内臓器を中心に理解する。 6. 泌尿器系 7. 生殖器系 8. 内分泌系 9. 神経系 10. 感覚器系 11. 体表解剖	1後	30	2	○			○				○	
○			生理学1 Physiology 1	人体の生理機能を学ぶ。身体の生命現象について理解する。 1. 総論 2. 血液と循環 3. 呼吸 4. 栄養と代謝 5. 消化と吸収 6. 体温とその調節	1前	30	2	○			○				○	
○			生理学2 Physiology 2	人体の生理機能を学ぶ。身体の生命現象について理解する。 7. 尿の生成と排泄 8. 内分泌 9. 骨の生理 10. 神経 11. 筋肉の機能 12. 感覚の生理 13. 生殖	1後	30	2	○			○				○	
○			生理学3 Physiology 3	高齢者・競技者の生理学的特徴・変化を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○	

○			解剖生理学 1 Anatomy and Physiology 1	人体の構造と機能を学び、統合的に理解する。 循環器系・消化器系・呼吸器系	2 前	30	2	○				○					○	
○			解剖生理学 2 Anatomy and Physiology 2	人体の構造と機能を学び、統合的に理解する。 泌尿器系・生殖器系・神経系・感覚器系	2 後	30	2	○				○						○
○			運動学 Kinesiology	人体の運動機能を、骨、筋肉、関節を中心に学ぶ。骨・関節・筋の構造と機能を理解する。 1. 運動学総論 2. 運動器の構造と機能 3. 運動の発現と制御 4. 頭・頸部・四肢と体幹の運動 5. 姿勢運動発達歩行	2 前	30	2	○				○						○
○			リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	リハビリテーション医学への理解を深め、その知識と技術を学ぶ。 1. 総論 2. 障害 3. 評価 4. 治療 5. 治療各論	2 前	30	2	○				○						○
○			一般臨床医学 General remarks of Clinical Medicine	内科疾患を中心に、診断、治療法を学ぶ。 1. 診察概論 2. 診察各論(問診・視診・打診・聴診・触診・生命徴候・知覚検査・反射検査) 3. 検査法 4. 主要な疾患	2 後	30	2	○				○						○
○			整形外科学 Orthopedic Surgery	整形外科の診断法と整形外科疾患を学ぶ。 総論：1. 診断法と検査法 2. 治療概論 3. 外傷総論 各論：1. 先天性骨系統疾患 2. 感染性軟部 3. 非感染性軟部組織・関節疾患 4. 骨端症 5. 骨・軟部腫瘍 6. 汎発性骨疾患 7. 神経および筋の疾患 8. 一般外傷・障害	2 前	15	1	○				○						○
○			病理学概論 Introduction of Pathology	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を学ぶ。 1. 病理学の意義 2. 疾病の一般 3. 病因 4. 退行性病変 5. 循環障害 6. 進行性病変 7. 炎症 8. 免疫異常・アレルギー 9. 腫瘍 10. 先天性異常	2 後	30	2	○				○						○
○			外科学概論 Introduction of Surgery	外科学の基礎と外科疾患を学ぶ。 1. 損傷 2. 炎症 3. 外科的感染症 4. 腫瘍 5. ショック 6. 失血と輸血・輸液 7. 滅菌法と消毒法 8. 手術 9. 麻酔 10. 移植 11. 止血 12. ショック対策 13. 蘇生法 14. 頭部・顔面部外傷 15. 意識障害 16. けいれん 17. 脳卒中 18. 脊椎損傷 19. 胸部外傷 20. 腹部外傷	2 前	30	2	○				○						○
○			衛生学・公衆衛生学 Hygiene and Public Health	環境保健、地域の公衆衛生を学ぶ。 1. 衛生学ならびに公衆衛生学の意義 2. 環境衛生 3. 公衆衛生 4. 感染症 5. 消毒	2 後	30	2	○				○						○
○			基礎鑑別学 Hygiene and Public Health	対象となる運動器疾患が業務範囲にあたるのかを適切に判断、施術できる能力を養う。	2 後	30	2	○				○						○
○			関係法規 Legal Issues in Medicine	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。	3 前	30	2	○				○					○	
○			柔道 1 Judo 1	柔道の技術と礼儀作法を基礎から身につける。	1 前	30	1				○	○					○	○
○			柔道 2 Judo 2	柔道の一歩進んだ技術と礼儀作法を身につける。	1 後	30	1				○	○					○	○
○			柔道 3 Judo 3	柔道の技術と礼儀作法を学び、形(手技・腰技)を習得する。	2 後	30	1				○	○					○	○

○			柔道 4 Judo 4	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（足技）を習得する。	3前	30	1			○	○			○	○
○			柔道概論 Introduction of Judo	柔道の歴史・考え方を通して、礼節作法を学ぶ。また職業倫理について学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	○
○			社会保障論 Social Security	医療費などの社会保障制度を理解し、健康や障害に応じた社会資源の活用ができる知識を学ぶ。	3後	15	1	○			○			○	○
○			柔整総論 1 General Judo Therapy 1	柔道整復学総論（骨折・脱臼）を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
○			柔整総論 2 General Judo Therapy 2	柔道整復学総論（軟部組織損傷）を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	○
○			柔整総論 3 General Judo Therapy 3	柔道整復学総論（治療法）を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	○
○			柔整基礎講座 1 Course of Basic Judo Therapy 1	骨・関節・筋の連結などについて立体的に学ぶ。	1前	30	2		○		○		○		
○			柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2	柔道整復術の習得に必要な基礎体表解剖を学ぶ。	1後	30	2		○		○		○		
○			後療法学 Arter Treatment of Injury	外傷の経過および治療判断方法を学ぶ。	3前	15	1	○			○		○		
○			臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	○
○			臨床柔整学 基礎各論 2 Clinical Judo Therapy Basic 2	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	○
○			臨床柔整学 基礎各論 3 Clinical Judo Therapy Basic 3	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	○
○			臨床柔整学 基礎各論 4 Clinical Judo Therapy Basic 4	柔道整復学各論を上肢・下肢を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	○
○			臨床柔整学 応用各論 1 Clinical Judo Therapy Advanced 2	柔道整復学各論を上肢・下肢を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	○

○		臨床柔整学 応用各論2 Clinical Judo Therapy Advanced 2	柔道整復学各論を上肢・下肢を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。	2 前	30	2	○				○		○		
○		臨床柔整学 応用各論3 Clinical Judo Therapy Advanced 3	柔道整復学各論を上肢・下肢を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。	2 前	30	2	○				○			○	○
○		柔整応用鑑別 学 Judo Thetapy Differential Diagnosis Advanced	施術における損傷の適不適を判断できるよう医用画像診断を学ぶ。	3 後	30	2	○				○			○	○
○		物理療法学 Physical Therapy Equipment	物理療法機器の原理、作用などを学ぶ。	1 後	15	1	○				○		○		
○		基礎包帯固定 学1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures 1	巻軸包帯を用いた手関節周囲の基礎包帯法を学ぶ。	1 前	30	1			○	○			○		
○		基礎包帯固定 学2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures 2	巻軸包帯を用いた基礎包帯法や、三角巾による固定法、副子などの作成過程を学ぶ。	1 後	30	1			○	○			○		
○		柔整コンディ ショニング実 習1 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 1	実習を通じて固定法などの身体のコンディショニングスキル（治療技術含む）を習得する。	2 前	30	1			○	○			○		
○		柔整コンディ ショニング実 習2 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2	実習を通じてコンディショニングスキル（ストレッチング方法、固定法など含む）の治療技術を習得する。	2 後	30	1			○	○				○	○
○		外傷予防理論 実習1 Injury Prevention Conditioning Practices1	高齢者の生理学的特徴を活用し、外傷予防の手法を身に付ける。	2 後	30	1			○	○				○	○
○		外傷予防理論 実習2 Injury Prevention Conditioning Practices2	競技者の生理学的特徴を活用し、外傷予防の手法を身に付ける。	3 前	30	1			○	○				○	○
○		柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1	柔道整復学各論を部位別に学び、実習を通じて整復法、固定法などの治療技術を習得する。	2 前	30	1			○	○			○		
○		柔道整復実技 2 Judo Therapy Practical Training 2	柔道整復学各論を部位別に学び、実習を通じて整復法、固定法などの治療技術を習得する。	2 前	30	1			○	○			○		

○		柔道整復実技 3 Judo Therapy Practical Training 3	柔道整復学各論を部位別に学び、実習を通じて整復法、固定法などの治療技術を習得する。	2 後	30	1			○	○			○	○
○		柔道整復実技 4 Judo Therapy Practical Training 4	柔道整復学各論を部位別に学び、実習を通じて整復法、固定法などの治療技術を習得する。	2 後	30	1			○	○		○		
○		柔道整復実技 5 Judo Therapy Practical Training 5	柔道整復学各論を部位別に学び、実習を通じて整復法、固定法などの治療技術を習得する。	2 後	30	1			○	○			○	○
○		柔道整復実技 6 Judo Therapy Practical Training 6	柔道整復学各論を部位別に学び、実習を通じて整復法、固定法などの治療技術を習得する。	2 後	30	1			○	○			○	○
○		柔整外傷学実 習 1 Judo Therapy and Traumatology Practice 1	柔道整復学の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対する臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。	3 前	30	1			○	○			○	○
○		柔整外傷学実 習 2 Judo Therapy and Traumatology Practice 2	柔道整復学の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対する臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。	3 前	30	1			○	○			○	○
○		柔整外傷学実 習 3 Judo Therapy and Traumatology Practice 3	柔道整復学の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対する臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。	3 前	30	1			○	○			○	○
○		柔整外傷学実 習 4 Judo Therapy and Traumatology Practice 4	柔道整復学の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対する臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。	3 前	30	1			○	○			○	○
○		柔整外傷学実 習 5 Judo Therapy and Traumatology Practice 5	柔道整復学の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対する臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。	3 前	30	1			○	○		○		
○		臨床実習 1 Clinical Training 1	附属接骨院にて臨床実習を行う。	1 後	45	1			○	○		○		
○		臨床実習 2 Clinical Training 2	附属接骨院にて臨床実習を行う。	2 前	45	1			○	○		○		
○		臨床実習 3 Clinical Training 3	外部接骨院にて臨床実習を行う。	2 後	45	1			○		○		○	○
○		臨床実習 4 Clinical Training 4	附属接骨院にて臨床実習を行う。	3 前	45	1			○	○			○	

○			柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy A	柔道整復師として必要な解剖学（特に上肢の骨学・筋学・関節運動）を総合的に学ぶ。	1 前	30	2	○				○					○		
○			柔整解剖 B Anatomy of Judo Therapy B	柔道整復師として必要な解剖学（特に下肢体幹の骨学・筋学・関節運動）を総合的に学ぶ。	1 後	30	2	○				○						○	
○			柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A	柔道整復師として必要な生理学（骨・筋・神経などを中心）を総合的に学ぶ。	1 前	30	2	○				○		○					
○			柔整生理 B Physiology of Judo Therapy B	柔道整復師として必要な生理学（消化・吸収・代謝などを中心）を総合的に学ぶ。	1 後	30	2	○				○		○					
○			コンディショ ニングトレー ナー講座 1 Course of Conditioning Trainer Skill 1	コンディショニング理論と実践的な手法（スピード・アジリティ）を学ぶ。	1 前	30	2	○				○						○	○
○			コンディショ ニングトレー ナー講座 2 Course of Conditioning Trainer Skill 2	コンディショニング理論と実践的な手法（クイックネス）を学ぶ。	1 後	30	2	○				○						○	○
○			基礎医学講座 1 Course of Basic Medicine	医学を学ぶ上で必要な基礎知識（生物学など）を学ぶ。	1 前	30	2	○				○		○					
○			基礎医学講座 2 Course of Basic Medicine	医学を学ぶ上で必要な基礎知識（生物学など）を学ぶ。	1 後	30	2	○				○		○					
○			課題研究 Project Studies	設定したテーマについて研究、考察することで考え、行動し、自ら問題解決のできる能力を養うことを目的とする実習。	2 後	30	2			○		○		○					
○			柔道整復応用 講座 1 Course of Judo Therapy Advanced 1	柔道整復師として必要な運動学を学ぶ。	2 後	15	1	○				○						○	
○			柔道整復応用 講座 2 Course of Judo Therapy Advanced 2	柔道整復師として必要なリハビリテーション医学を学ぶ。	2 後	15	1	○				○						○	
○			柔道整復応用 講座 3 Course of Judo Therapy Advanced 3	柔道整復師として必要な一般臨床医学を学ぶ。	2 前	30	2	○				○		○					
○			柔道整復応用 講座 4 Course of Judo Therapy Advanced 4	柔道整復師に必要な整形外科学を学ぶ。	2 後	30	2	○				○						○	

○		柔整医学演習 1 2 Medical Practice of Judo Therapy 12	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。	3 後	30	2		○		○			○	
○		柔整医学演習 1 3 Medical Practice of Judo Therapy 13	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。	3 後	30	2		○		○		○		
○		柔整医学演習 1 4 Medical Practice of Judo Therapy 14	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。	3 後	30	2				○		○		
○		柔整医学演習 1 5 Medical Practice of Judo Therapy 15	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。	3 後	30	2				○			○	
○		柔整医学演習 1 6 Medical Practice of Judo Therapy 16	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。	3 後	30	2				○		○		
○		柔整医学演習 1 7 Medical Practice of Judo Therapy 17	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。	3 後	15	1				○		○		
合計				98科目	2865単位時間(161単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上	1学年の学期区分
	1学期の授業期間	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。